

## 「テングサと寒天」の「よもやま話」



写真1 現存する寒天作業場 大阪府高槻市原



写真6 現存する寒天釜 京都府亀岡市犬甘野



写真2 寒天を生産する丹波の人々  
1952～1958年頃 岐阜県恵那郡鶴岡村原



写真5 140年前のテングサの展示 北海道大学植物園



写真3 寒天の突き出し作業  
大阪府高槻市字田能

田地川和子氏は著名な植物画家で、作品は国立科学博物館やイギリスのRoyal Botanic Gardens Kew, アメリカのHunt Institute for Botanical Documentation, Pittsburgh Botanic Gardenなど国内外の多くの博物館等で展示、あるいは収蔵され、「針葉樹」「帰化植物」(保育社)、「Curtis's Botanical Magazine」、「The Genus *Epimedium*」、「Flora Japonica(日本植物誌)」などの出版物にもその画が収録されています。

田地川氏は1996年に貴島せい子氏、肥田陽子氏と植物画グループ「GREEN GRASS」を結成し、植物画の製作と展示を行ってこられました。人と自然の博物館の連携活動グループとしても20年近く活動され、小・中学生を対象に植物画の描き方を指導するセミナーを毎年開催し、受講生の作品が国立科学博物館主催の植物画コンクールで賞を頂いたこともありました。元当館職

員の高橋晃氏や長谷川太一氏らが、Green Grassのセミナーや絵画制作の材料入手、植物の細部構造の観察に協力してきました。他の植物画グループにも声をかけられて、人と自然の博物館で植物画展を開催されたこともありました。長年にわたり良好な関係を築いていた関係で、田地川氏が2021年に逝去された折、ご遺族から57点の作品を寄贈いただくことになりました。寄贈作品にはカトレアやデンドロビウム等、華やかな植物の画もありますが、日本の野生植物、中にはヤブレガサモドキなどの兵庫県RDB掲載種の画もあります。博物館と植物画家の良い関係を象徴するコレクションと言えます。

高野 温子(系統分類研究グループリーダー)



図1. タニウツギ  
(スイカズラ科)  
水彩画  
制作:2019年  
神戸市立森林植物園



図2. ハマゴウ (シソ科) 水彩画.  
制作:2013年 採集地:洲本市

## トピックス

## コレクションナリウムを地域の拠点に

2022年11月の休日、コレクションナリウム前の広場で親子連れが白い丸椅子の座面に好きなものを描き、別日には、地面にチョークで大きなクリスマスツリーを描き、少し早いクリスマスを演出しました(写真1)。これは、兵庫県立大学地域創生人材教育プログラムでやってきた学生チームの企画です。子供たちのアイデアを活用して地域コミュニティの場にしようという試みです。また、別のチームは、コレクションナリウムの展示品や触れる資料を活用したゲーム、三田市役所による健康

測定会、広場でフラダンスなどを企画しました。ひとへはくきている若い世代に認知症予防などに取り組んでもらおうというもので、コレクションナリウムが健康づくりの拠点となりました(写真2)。学生たちが、コレクションナリウムは、人が集まるのに便利な駅前の場所で、博物館らしからぬ多様な人々の活動の場になると楽しいということを示してくれました。

藤本 真里(環境計画研究グループ)



写真1 コレクションナリウム前広場に描いた巨大ツリーと学生たち



写真2 フラダンス開始の解説をする学生たち

